

平成 22 年 5 月 21 日

次回地震予知連絡会（8 月 20 日開催予定）における重点検討課題の検討について

地震予知連絡会

1. 次回地震予知連絡会（第 187 回：8 月 20 日開催予定）における重点検討課題  
課題名：「地震活動について」

2. 目的

地震活動の標準的予測モデルの提案を促し、それらの性能を検証する CSEP 研究プロジェクトの日本に於ける取組みについて紹介し議論する。さらに、地震活動や余震活動における種々の異常現象の検出法、その有意性や大地震や大余震の予測の確率利得を向上させる方策について議論をする。

3. 検討内容

- 1) 最近、大量のデータを前にして、標準的な地震活動を捉えるモデルの開発を促し、それらの性能を予測の観点から比較検証する国際的なプロジェクト Collaboratory for the Study of Earthquake Predictability (CSEP)が主要地震国で連携して進められている。同時にこれは、これまで提案されてきている、地震活動の様々な異常性による各種の地震予測法の有意性と確率利得を評価できる基盤を整備することにもなっている。K 科学技術・学術審議会測地学分科会の建議や地震・火山噴火予知研究協議会の中でもこの課題を取り組むことが定められ、具体的に CSEP の日本版実験への参入が広く呼びかけられ実施されている。この取組みについて、我が国の実情と特徴を中心に紹介し、議論を深めたい。
- 2) 従来から報告されている地震(余震)活動の異常の研究について、標準的な地震活動と対比することなどから定量的な議論を試みる。そこで、異常性の物理的な考察やモデリング、それらの異常性を手掛かりとした大地震(大余震)の予測に対する可能性と有意性の検証、それらの予測が確率利得の向上につながるかの検討、これらも CSEP 日本のプロジェクトの課題であると考え。